

2年ぶり2度目優勝

おはようバーディーで乗る

《第10回九州スーパーシニアカップ男子の部》

イーブンパー72（大会ベストスコア）

瀧下 幸治（ザ・マスターズ天草、81歳）



いきなりスタートの10番ホール（360ヤード）が2年ぶり2度目の優勝への分かれ目となった。瀧下の第2打はグリーン周りのスプリンクラーに当たって大きく跳ね、グリーン奥の斜面に。カップまで30ヤードで強い下り。「ダボを覚悟した」56度のウェッジの第3打は、本人の意思に反して直接カップインした。「10番にはゴルフの神様がいた。モーニング・バーディーはろくなことはない

というけどね」と笑いながら、続く11番ショート（140ヤード）では50cmにつけて連続バーディー。この2ホールで勢いをつけて、終わってみれば2年前に自らが作った大会最少スコア73を1つ縮めるパープレーの72だ。後半7番のダブルボギーを悔やんだが、納得のプレーだった。

瀧下のゴルフをサポートしたのは小郡CCのキャディー。「本当にキャディーさんのお陰。距離、ラインがばっちり。グリーンが硬くて転がる。昨日（13日）はボギーばかり」。セルフで回った大会前日の練習ラウンドではグリーンに手こずり、ゴルフにならなかったという。キャディーには感謝してもしきれない。

21歳から外洋航路の船乗りで、本格的な競技ゴルフを始めたのは66歳から。ホームコースのザ・マスターズ天草では、80歳になるまでバックティーを使用し、今はレギュラーティーから回る。これまで達成したエージシュートは、この日を加えて790回を超える。正確に記録し始めたのは70歳からである。

「去年は（エントリーミスで）出られなかったのが、今年は（優勝を）取らんと、と思とった。取ったから今年はいいい年やった。元気にやれるよう、頑張らんと」。今年の九州グランドシニア（70歳以上）では初日に首位タイになるなど81歳とは思えないプレーを展開する瀧下が、来年のこの大会で最多の3度目の優勝を目指す。

2年連続2度目のV

「3連覇を狙います」

《第10回九州スーパーシニアカップ女子の部》

4オーバー 76

岩切 マリ子（宮崎ゴルフ、73歳）



男子の部の優勝インタビューが終わった30分後、女子の部を制した岩切が瀧下と同じ言葉を口にした。「グリーンがすごく難しく、思うようにいかなかったのですが、キャディーさんが良くて、芝目をよく読んでくれました。キャディーさん頼み。本当にありがたかった。特に18番では」と岩切がこの日の唯一のバーディーである18番ミドル（285ヤード）の説明をし始めた。

岩切の第2打はグリーン左のカラー。カップまで10ヤード。岩切は「カップ3個分スライス」と思ったが、キャディーの返答は「もう少し」。その通りに打つと、心地良い音が聞こえた。「キャディーさんが読んでくれなかったら入らなかった」。昨年の大会では6個あった3パットが今年はゼロ。コースも状況も異なるだけに簡単な比較はできないが、岩切にとっては相性のいいキャディーだったようだ。

昨年4月に股関節を痛めた。鍼灸院に通って治療を続けていたのだが、思うように治癒しなかったために、病院にかかったところ、出た診断が「神経痛」。それから痛み止めの薬を継続して服用していたら、今年8月に痛みが引いたという。「それまで痛くて上下のバランスも良くなく、フォームを崩していた。今は普通に歩けるし、気持ちいい。足が治ったからボールが思うところに行くようになった」と今回は昨年とは違う快適なゴルフだった。

「2連覇は『私しかない』と思ってプレーしました。勝てて良かった。3連覇を狙います」。男子同様こちらも女子最多の3度目の優勝へまっしぐらだ。

《小郡CC》

